

体験留学

高木早紀さん

ハンブルグ音楽大学国際音楽セミナー参加(2012年9月4日～9月17日)

ハンブルグで過ごした二週間はとても濃いものでした。5人の先生からそれぞれ2回ずつのレッスンがあり、それぞれに様々な表現の仕方や技術などを教えていただきました。また、講習会中受講生の中から選抜でのコンサートにも出席させていただき、とても有意義な経験をすることができました。

今回特に印象に残ったのは音の響きについてです。私は今まで演奏する際に思ったように音量がでないことで悩んでいました。しかしこの度の講習会においてどの先生からも言われたことが「響きを聞く」ということでした。広いホール、特にヨーロッパの湿度が低い土地で弾いたときの音が遠くまで抜ける感触、空間に響きが溶け込む感触はなかなか得難く、しかしそれは楽器を演奏する以上非常に大切なものであると再認識しました。ヨーロッパにおいてはノンビブラートの状態でも楽器が中から振動し、とても深い響きを出してくれます。日本では響かないのかということではないのですが、ハンブルグではとても楽器が鳴りやすく、楽器の響き方、鳴らし方について勉強することができました。

参加している学生もとてもレベルが高く、非常に刺激になりました。参加者はドイツ国内はもちろん、オーストリア、フランス、チェコそしてアジアなど多方面から集まっており、曲に対する見解や解釈の仕方の相違はとても興味深いものでした。多くの国の学生と音楽やテクニクについて語らうことはとても貴重な経験で、とてもよい思い出です。更に講習会中に毎日あったオーケストラの授業では、たくさんの仲間とアンサンブルを楽しみながら数々の曲を一緒に勉強し、それは私にとって大きな収穫でした。

この度の体験留学では本当にたくさんのことを勉強することができました。また滞在中は橋丸副理事長が近くにいらっしゃるといっただけでとても心強く、お忙しい中日本フェスタなどに一緒させて頂き、本当に感謝しております。これからの音楽活動においてもこの経験を活かし大きくステップアップしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

若原有希奈さん

ハンブルグの語学学校に留学(2005年7月16日～8月30日)

この留学のアジェンダは、ドイツ語中級統一テスト(ZMP)に合格し、ドイツの大学に入学する資格を得ることでした。そのため、毎日5時間睡眠でドイツ語の予習復習に励み、長い長い通学時間では辞書を引いていました。

ハンブルグに滞在中は、本当にたくさんの出会いがありました。イラク出身の外科医Aさんの話からは、イラク戦争の生々しい現実を思い知らされました。ポーランド人のMさんとAさんには「試験3日前から勉強をしない」という想像を絶するリラックス法とオンとオフの強弱を教えて貰いました。一緒に試験対策集中講義を乗り切ったロシア人の若々しいマダムEさんは、ZMP合格が最も危ういと言われていた

私を暖かく励ましてくれ、日本人のHさんとHiさんは日本人特有の悩みを理解してくれました。そしてオーストラリア出身のJさん！メルボルンの海辺でのびのびと育った彼女は、おおらかで優しく好奇心旺盛でした。チャーミングな彼女から受けたポジティブな影響は計り知れません。

また、副理事長の橋丸さんには本当にお世話になりました。ホストファミリーにうまく自己主張できないで溜めていた問題を聞いていただき、間に立って解決していただきました。最初のご好意に甘えきっていましたが、徐々に自分の意思を伝えられるようになり、精神的に逞しく(まだまだ未熟ですが)なることができました。

このように、沢山の方々に励ましていただいて実りある6週間を過ごすことができ、ZMP試験合格という最高の結果を残すことができました。日本から頻りに電話をかけてくれて、号泣している私を笑いへと誘い込んでくれた友人、電話やメールですずっと励まし続けてくれた家族には深く感謝しています。

このような体験をさせていただく機会を与えてくださったJGCCの皆様、本当にどうもありがとうございました。

石田朋子さん

ハンブルグでヴァイオリンレッスン(2000年9月30日～10月14日)

有名な師から学ぶ

石田さんは約2週間の滞在で、多くの著名人からソロのレッスンを受けました。中には、前ベルリンフィルハーモニーのコンサートマスター、コリヤ・ブラッハー氏や、バイエルン響のミッテルベルガー先生、そしてザハール・ブロン先生などに直接指導を受けました。石田さんはそのレッスンの中で、ブラッハー先生の美音を作り出す右手のテクニックを習得し、ミッテルベルガー先生からは理論的、伝統的かつ音楽的な曲の理解と演奏法を学び、また、ザハール先生のエネルギー溢れるレッスンでは、「今まで持っていた音楽のビジョンを遥かに超えた位置」を示してもらったということです。

コンサートに参加

今回の留学の最大の目的は、ハンブルグ・モーツァルト・オーケストラに特別参加してコンサート本番までの練習を一緒に体験することでした。4日間にわたるオーケストラの練習に明け暮れた石田さんでしたが、なんとコンサート当日、団員が風邪により欠席になったことで、急遽、弾くことになりました。練習での違和感のなさに指揮者のロベルト・シュテューリ氏が認めてくれたのです。この日の演奏会を「聴きに」訪れるはずだったのが、「弾く」ことになった石田さん。「オーケストラに参加した時、最初は怪訝な目で見っていた団員の方々が、一緒に音楽を弾くことで、打ち解けてくれた過程は感動的でしたし、何よりも受け入れてくださった指揮者には心から感謝しています」と日記に記しています。

驚きの2週間

石田さんは留学中に多くの人々と交流し、ヴァイオリンのレッスンのみならずハンブルグという街の美しさを見て歩き、歴史や文化にもふれることができました。最後に石田さんは「今回の留学体験はすべてが驚くべきもので、充実して信じられな

いことの連続でした。個人の先生もアンサンブルの先生も、オーケストラも すべてが一流の演奏家。その彼らが、日本から来た私を、JGCCの留学生ということで、とても暖かく迎えて接してくれました。それらはすべて橋丸副理事長のご尽力によるものです。本当にありがとうございました」と振り返っています。

羽川真介さん

ハンブルグでチェロのレッスン(2000年9月30日～10月14日)

暖かく受け入れられる

ハンブルグへの体験留学へ参加し、さまざまなことを体験してきました。素晴らしい演奏会の数々。ホームステイでのホストファミリーとの交流、先生方によるレッスンなど、一言では言い尽くせないほど盛りだくさんなものでした。ハンブルグに着くまではいろいろと不安もあったのですが、橋丸さんとのミーティングが終わった時にはそのような不安もなくなり、その内容に驚いたほどでした。

ホームステイ先も日本人の留学生を多く受け入れている家庭でそのときも一人の学生がすでにホームステイしており、とても過ごしやすい雰囲気でした。橋丸さんもつきっきりで我々2人の面倒をみてくださいました。

悩みが解消された

今回の体験留学の中で一番良かったことは、ヨーロッパにおける古い音楽への取り組みを感じることができたことです。自分自身が今とても悩んでいる事柄だったので、とても興味深いものでした。弦楽器には古楽器というものがあり、日本においては、古楽器演奏者はあまり現代の楽器は演奏しないものですが、彼らは古い音楽を演奏するときは、モダンな楽器を演奏する演奏者であっても古い楽器を使っていました。これはあまり日本ではみられない傾向なのでとても興味深く感じました。このような差を実際に体験できるのは本当に貴重なことです。今回体験することができたさまざまな経験が、後になって自身のなかで生きてくるのではないかと思います。このような体験をさせていただいたJGCCと、橋丸さんには本当に感謝したいと思います。